

「奉献生活の年」



週報

B年

2015年
3月15日(日)

カトリック 園田教会

No. 1943



四旬節 第4主日

四旬節愛の献金

黙想会 指導司祭 : ヘスス・ラモス神父 (オプス・ディ)

スケジュール

9:00~ 9:15	指導司祭紹介
9:15~10:15	第1講話
10:15~10:30	休憩(沈黙)
10:30~11:30	第2講話
11:30~13:00	昼食(沈黙) (各自弁当持参)
13:00~14:00	ゆるしの秘跡
[10:30~14:00	聖体顕示と祈り]
14:00~15:00	ミサ
(15:00~	茶話会)

今日の聖歌と祈り

- 入祭の歌 : 典礼聖歌 173 わたしたちは 神の民
答唱詩編 : 「聖書と典礼」をご覧ください
詠唱 : 「聖書と典礼」をご覧ください
奉納の歌 : 典礼聖歌 321 いつくしみと愛と
感謝の賛歌 : プリント サンクトゥス (カトリック聖歌集271ページ)
拝領の歌 : プリント あわれみの み心よ (カトリック聖歌 161 番)
聖体礼拝 : 典礼聖歌 63 神は恵みと あわれみに満ち

今日の典礼奉仕者

先唱	Sr. 辻家
聖体奉仕	Sr. 北浜
第1朗読者	河瀬(壮)
第2朗読者	スアン
共同祈願・意向担当者	① 丸尾 ② 長岡 ③ 市瀬 ④ ラン
奉納と献金	信仰教育委員会
典礼当番	岡田、武永
答唱詩編	全員
オルガン奉仕者	本田

今日の行事・他

・日曜学校(信仰教育):子どもの黙想会(司祭館)・

お知らせ

・本日(3月15日)14:00～、大阪聖ヨゼフ修道女会初誓願式が本部 祈りの家 みこころの聖堂 で執り行われます。
シスター ビアンネ タンタオ と シスター セシリア マイ ジュエンのお二人が 初誓願 をされます。
お二人の修道生活が、主の祝福により恵み豊かなものとなりますように、みなさんのお祈りをお願いいたします。

3月17日は「日本信徒発見の聖母」の祝日 です。

これまで「長崎信徒発見の記念日」として任意に祝われていましたが、本年(2015年)より「日本の信徒発見の聖母」の名称で、日本固有の祝日として祝われることになりました。

キリスト教への迫害が少し緩やかになった1865年のこの日、10数名の男女が、建てられて間もない大浦天主堂を訪れ、プティジャン神父に「わたしたちは皆、あなたと同じ心です」と、キリスト教の信仰をもっていることを告げました。彼らは、200年以上にも及ぶキリスト教への厳しい弾圧を、不屈の信仰をもって耐え忍んできた人々の子孫でした。

〔 ※ 「教会の祈り」読書の第2朗読 プティジャン神父の手紙 を 添付いたしました。お読みください。 〕

教皇フランシスコ ツイート(邦訳)

- ・私たちはみな罪人です。みな回心するよう招かれています。
- ・信仰を持てば困難さがなくなるのではなく、困難に立ち向かう強さが持て、自分は独りじゃないと分かるのです。
- ・主よ、私たちに恵みを与え、自分が罪人であることを悟らせてください。
- ・人生を神に奉獻した人々がいる場はどこであっても、喜びに満ちています。
- ・秘跡とは、私たち一人一人に対する御父の優しさと愛の表れです。
- ・神がゆるせない罪はありません。ゆるしを願えばいいのです。
- ・イエスは日々、私たちのためにとりなしてくださいます。祈りましょう。主よ、私をあわれんでください、とりなしてください。



今週の暦

3月16日(月) 集会祭儀 6:30～

3月17日(火) 《祝》日本の信徒発見の聖母
ミサ 6:30～ ジョヴァンニ神父
「教区:日本の信徒発見150周年記念」

3月18日(水) ミサ 6:30～ ジョヴァンニ神父
「教区:司祭評議会 10時半」

3月19日(木) **《祭》聖ヨゼフ** ミサ 6:30～ ジョヴァンニ神父


3月20日(金) ミサ・十字架の道行 19:00～ ジョヴァンニ神父

3月21日(土) ミサ 7:00～ ジョヴァンニ神父
・入門講座(9:00～10:00)
・教会清掃(ヨゼフ会)
「教区:召命の日」

[春分の日]

3月22日(日) 四旬節第5主日
ミサ・聖体礼拝 9:00 ボナツィ神父
「四旬節愛の献金」

・日曜学校(信仰教育):(春休み)



プティジャン神父の手紙

ジラル神父にあてたプティジャン神父の手紙

わたしたちの心はみな、あなた様の心と同じでございます

敬愛申し上げる神父様

心からお喜びください。わたしたちのすぐ近くに、昔のクリシタンの子孫がたくさんいるのです。彼らは、わたしたちの聖なる信仰についての記憶を大切に心に留めているようです。まずわたしに、この感動的な出会い、自ら目の当たりにし、こうした判断を下すにいたったこの出会いを簡単に物語らせてください。

昨日の十二時半ごろ、子どもを交えた十二名から十五名ほどの男女の団が天主堂の扉の前に立っていました。単なる好奇心で来た人たちとは振る舞いが違っている様子でした。天主堂の扉は閉まっていたので、わたしは急いで扉を開き、内陣の方に進んで行くと、この人たちも後からついてきました。一か月前にはじめてあなたがわたしたちにお与えくださり、いつの日にか現れるかもしれないクリシタンのために、わたしたちが聖体の形態のもとに聖櫃の中に大切に安置しておいた神なる主の祝福を、わたしは彼らの上に心から祈り求めました。

わたしは救い主のみ前にひざまずいて礼拝し、周囲にいるこの人々の心の琴線に触れ、この中から主を礼拝する者を主のみもとに引き寄せることのできる適切なことばをわたしの唇にお与えください、と懇願しました。ほんの一瞬祈った後でしょうか、四十歳か五十歳ほどの一人の婦人がわたしのそばに来ると、胸に手を当てて申しました。「ここにおりますわたしたちの心はみな、あなた様の心と同じでございます」と。「ほんとうですか」とわたしは答えました。「あなたがたはどちらの方ですか」。「わたしたちはみな、浦上の者でございます。浦上ではほとんどみな、わたしたちと同じ心をもっております」。そして、すぐにその同じ人がわたしに、「サンタ・マリアのご像はどこ」と尋ねました。「サンタ・マリア」、このめでたいみ名を耳にして、わたしにはもう疑う余地がありません。わたしの目の前にいるのは、まぎれもなく日本の昔のクリシタン信者の子孫なのです。わたしはこの慰めを神に感謝いたします。（裏面へ）

(表面つづき)

わたしは、このいとしい人々に取り囲まれ、促されて、彼らを聖母の祭壇へ、あなたがフランスからお持ちくださったあのご像が安置してある祭壇へと案内しました。彼らはみな、わたしにならってひざまずき、祈りを唱えようとしていましたが、あふれる喜びに耐えきれず、聖母のご像を仰ぎ見ながら、口をそろえて、「ほんとうにサンタ・マリア様だ。見てごらん。御腕に御子ゼスス様を抱いていらっしゃる」と感嘆の声を挙げました。そして、すぐにその中の一人が申しました。「わたしたちは、霜月の二十五日に、御主ゼスス様のご誕生のお祝いをいたします。御主は、この日の真夜中ごろに家畜小屋の中でお生まれになり、貧しさと忍耐のうちに成長され、御年三十三歳の時、わたしたちの魂の救いのために十字架にかかってお亡くなりになりました、と聞いております。今は悲しみの季節(悲しみ節)です。あなた様方にもこのような祝祭日がおありでしょうか」と尋ねるので、「そうです。今日は悲しみ節の第十七日に当たります」と答えました。わたしは、この「悲しみ節」という言葉をもって、四旬節のことを言いたいのだとわかりました。

この善良な参観者たちが、聖母マリアのご像を見つめて感動したり、わたしに質問をしたりしている間に、ほかの日本人たちが天主堂に入ってまいりました。わたしの周囲にいた人たちは、たちまち四方八方に散りましたが、すぐにまた戻ってきて、「まったく心配する必要はございません。彼らはわたしたちの仲間、わたしたちと同じ心の者でございます」と申しました。

わたしは、天主堂を参観するいろいろな人が絶え間なく往来するのに妨げられて、この参観者たちと思うように話をするできませんでした。けれども、浦上のわたしたちのキリスト信者——今日からわたしは彼らをこのように呼びたいのです——との間で、彼らが出直してわたしたちに会いに来るという申し合わせをしました。彼らが何を保ってきたのか、少しずつ確かめることにいたしましょう。彼らは十字架を崇め、聖なるおとめマリアを大切に、祈りを唱えています。しかし、それがどのような祈りなのか、わたしにはわかりません。そのほかの詳しいことは、近日中にお知らせ申し上げます。

一八六五年三月一八日 長崎にて

日本の使徒座宣教師 ベルナール・プティジャン